

第3節 安全保障対話・防衛交流

1 安保対話・防衛交流の意義

アジア太平洋地域において、二国間の対話や交流が活発化する一方、多国間の安保対話の試みが定着している。このような情勢の下、防衛庁としては、国家間の信頼関係を増進し、より安定した安全保障環境の構築を図る上で、安保対話・防衛交流を最近一層重視している。防衛当局間の関係の構築・強化は、その性格などを考慮すれば、国家間の信頼関係を増進し、ひいては国際社会の平和と安定に大きな意味を持つ。

二国間の防衛交流は、相手国の相互理解や信頼関係の増進などを目的としており、防衛首脳クラスなどの交流から防衛当局者間の定期協議、部隊間の交流、留学生の交換などさまざまなレベルで実施されている。

多国間の安保対話は、複数国が一堂に会し、意見交換や協議を通じて信頼関係の増進を図るものである。アジア太平洋地域ではASEAN地域フォーラム（ARF）が重要だが、その他にもさまざまなレベル及び事項について対話の場が設けられている。

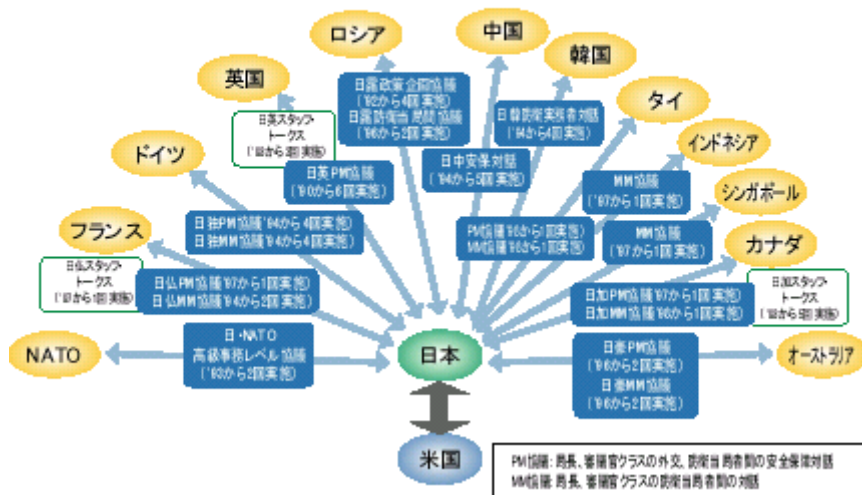
2 さまざまな二国間の防衛交流

橋本総理・李鵬首相の相互訪問など日中関係全般の進展を背景に、日中防衛交流が活発化してきている。本年前半には防衛庁長官と中国国防部長との相互訪問が実現し、防衛交流の促進について合意するとともに、講演や部隊視察を行った。また、陸上幕僚長の訪中のほか、外交・防衛当局間の安全保障対話や医療分野の交流などが行われている。

二度にわたる日露首脳会談の成果を受けて、日露防衛交流は着実に進展しており、事務次官や統合幕僚会議議長の訪露が実現したほか、防衛当局間の安全保障対話や艦艇の相互訪問が進められており、捜索・救難に関する共同訓練も計画されている。防衛庁としては、日露関係全般の進展の中で、着実にロシアとの防衛交流を進めていきたいと考えている。

韓国や東南アジア諸国との間では、ハイレベルの交流や定期協議、留学生の交換などの各種の交流が定着している。

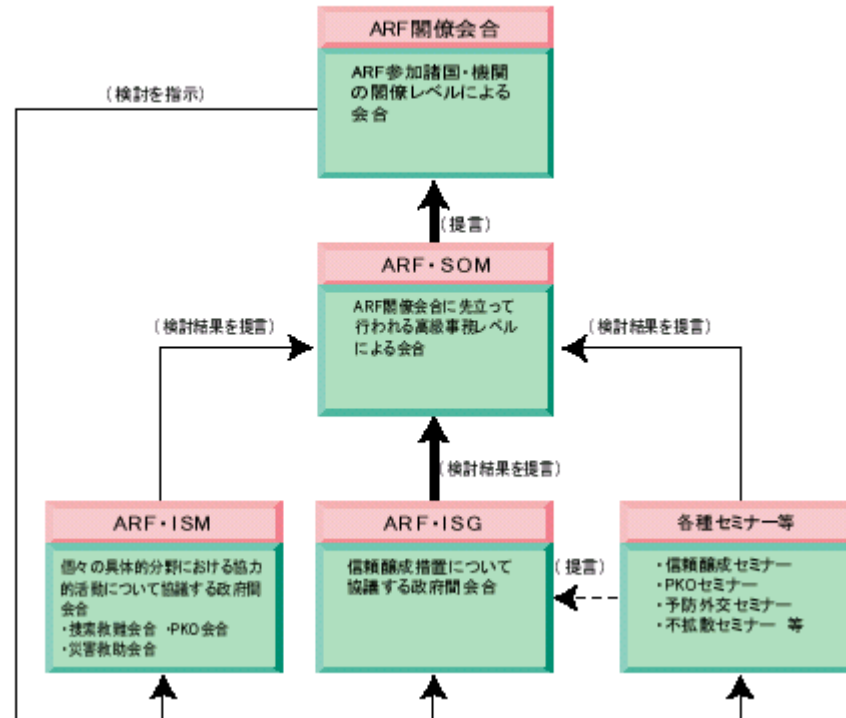
第4-5図 諸外国との定期的な協議などの実施状況（1998.5.31現在）



3 深まる多国間の安全保障対話

我が国は、アジア太平洋地域における多国間の安保対話の場であるARFのプロセスに積極的に関与しており、防衛庁も防衛政策などについての文書の提出や職員の派遣など積極的な関与を行っている。

第4-6図 ARF 関連の会合の流れ



防衛庁は、各国防衛当局者との情報・意見交換を通じた相互理解の促進のため、自ら主体となってさまざまな対話の機会を設けてきている。

- ・ アジア・太平洋地域防衛当局者フォーラム（防衛庁全体）
- ・ 国際防衛学セミナー（防衛大学校）
- ・ アジア・太平洋諸国安全保障セミナー（防衛研究所）
- ・ 陸軍兵站実務者交流（MLST）（陸上自衛隊）
- ・ アジア・太平洋諸国海軍大学セミナー（海上自衛隊）
- ・ 国際航空防衛教育セミナー（航空自衛隊）

など

防衛庁は、各国の政府又は民間主催による多国間の安保対話にも積極的に参加している（日米韓防衛実務者協議、太平洋地域後方補給セミナー、北太平洋安全保障三極フォーラムなど）。